

済生会熊本病院 臨床研究センター 発足1周年のご挨拶



一門 和哉

いちかど かずや

呼吸器内科部長 兼
臨床研究センター長

済生会熊本病院は、安全でより有効な医療を開発・発信する取り組みを一層強化するため、2025年1月1日に臨床研究センター(Clinical Research Center)を発足させました。

この一年、当センターでは治験および臨床研究における包括的な支援体制を整備し、研究者・企業・地域の皆様がより利用しやすい環境づくりを推進してまいりました。当院の豊富な症例と高度な医療技術を背景に、臨床研究に取り組むスタッフの育成と研究活動の活性化にも力を注いでいます。

臨床研究の充実は学術分野での当院の存在価値を高めるだけでなく、治験依頼の増加にもつながり、最新の医療を地域の皆様へ届けるための大きな推進力となります。今後も患者さんの安全と権利を守りながら、新しい医療の開発と発信に貢献できる組織として機能拡充に努めてまいります。引き続き、皆様の温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● TOPIC

患者さんの負担を軽減する「DCT(分散型臨床試験)」の取り組み

当院では、患者さんの利便性向上と治験参加の障壁軽減を目的として、DCT(Decentralized Clinical Trial:分散型臨床試験)を積極的に受け入れております。

従来の治験では患者さんは定期的に医療機関へ来院いただく必要がありましたが、DCTではオンライン診療やウェアラブルデバイスによる遠隔モニタリング、ご自宅への治験薬の配送など、デジタル技術を活用することで通院の負担を大幅に軽減することが可能となります。

特に、遠方にお住まいの方やお仕事や育児などで頻繁な通院が困難な方にとって、治験参加のハードルを下げ、より多くの患者さんに最新の医療へアクセスする機会を提供できると期待しております。

当院は熊本県における治験実施施設の一つとして、DCTをはじめとする新しい臨床試験の手法を取り入れ、患者さん中心の医療の実現を目指してまいります。

当院で実施している治験について

臨床研究センターでは現在、呼吸器内科・循環器内科を中心に、肺がん、急性呼吸窮迫症候群、特発性肺線維症、慢性心不全、高血圧症など、多様な疾患領域において治験を実施しております。治験とは、新しい薬や治療法の有効性と安全性を確認するための臨床試験です。患者さんのご協力のもと将来の医療に貢献する大切な取り組みであり、当院では厳格な治験審査と安全管理体制のもとで実施しております。

- 疾患例：急性呼吸窮迫症候群、肺がん、特発性肺線維症、進行性肺線維症、慢性心不全、高血圧症

現在実施中の治験につきましては当院ホームページにて公開しておりますので、ご関心のある方はぜひご覧ください。治験への参加をご検討される場合は、臨床研究センター治験事務局までお気軽にお問い合わせください。

臨床研究管理室 治験事務局

TEL 096-351-8000

FAX 096-351-8698

[受付時間] 月～金 8:30～17:00(土・日・祝日は除く)

<https://sk-kumamoto.jp/crc/general/trial/>

現在実施中の
治験はこちら



[サイクル]

済生会熊本病院 連携広報誌

vol. 112

2026.February

明日へつながる、より確かな医療連携をめざして。

s a i k u r u



ルタテラ治療

Lutathera therapy

神経内分泌腫瘍(NET)に対する
切除不能・増悪例における新たな放射線治療





ルタテラ治療

神経内分泌腫瘍(NET)に対する
切除不能・増悪例における
新たな放射線治療



総合腫瘍科
がん先端医療推進部長 兼
がんゲノムセンター長

小田 尚伸 おだ ひさのぶ

神経内分泌腫瘍は主に膵臓、消化管、肺などに発生する非常に稀な腫瘍です。今回ご紹介したルタテラ療法は、放射性同位元素を用いた画期的な治療法で、切除不能あるいは遠隔転移を有する神経内分泌腫瘍患者さんの生存期間を有意に延長することが示されています。当院以外にルタテラ療法が可能な施設は、熊本県および南九州では大学病院に限定されています。当院はがんの先進的医療に今後も貢献して参ります。治療対象になるか迷われる症例などございましたら、直接総合腫瘍外来までご相談ください。

日本ではまだ希少なが、近年着実に診断数が増えている神経内分泌腫瘍(NET)。その治療の新たな選択肢として、当院では2025年度より核医学治療(ルタテラ)による治療を開始しました。この治療はソマトスタチン受容体陽性NETに対して行う内用療法で、SSTRイメージングで適応を確認したうえで、8週ごと・最大4回の点滴投与により腫瘍を内部から攻撃する最新の治療法です。国内でも有効性・安全性が確立しているこの治療は、法令に準拠した放射線管理体制で施行され、従来治療と比較しても高い治療効果が期待されています。熊本県内では当院を含む2施設のみが提供可能であり、当院でも地域の患者さんに提供できる診療体制を構築しました。

ルタテラとは？

神経内分泌腫瘍(NET)患者さんの腫瘍細胞の表面には、ソマトスタチン受容体が多く発現しています。ルタテラは、この受容体が細胞内に取り込まれる性質を利用した放射性医薬品です。

対象疾患

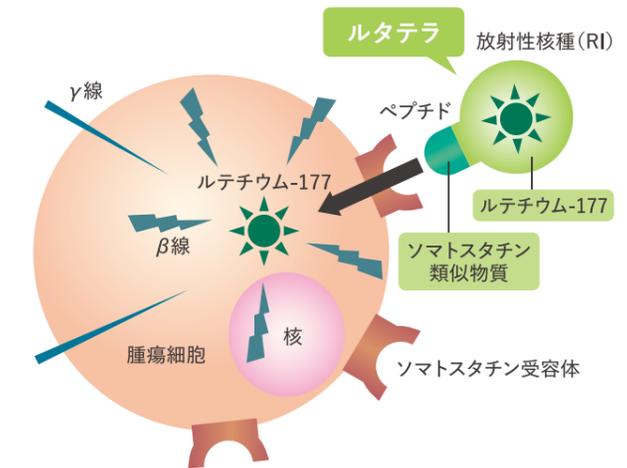
膵臓、消化管、肺などに発生するソマトスタチン受容体陽性の神経内分泌腫瘍

治療前の検査

オクトレオスキャン検査によって、腫瘍がソマトスタチン受容体陽性であることを確認します。

● 治療の仕組み

ルタテラは、ソマトスタチン類似体に放射性同位体のルテチウム-177を結合させた薬剤です。腫瘍細胞表面のソマトスタチン受容体に結合すると、受容体とともに細胞内に取り込まれます。ルテチウム-177から放出されるβ線(治療用)とγ線(画像診断用)により、細胞内部から腫瘍細胞に放射線障害を与えます。



● 治療の流れ



ルタテラの投与は、およそ8週間隔で最大4回行います。投与の際は、周囲の人の被ばくを避けるため、特別な個室へ入院します。投与後は、体から放出される放射線量が下がるまで病室内に滞在する必要があります。投与された放射性物質の大部分は主に尿として体外に排出されるため、多くの患者さんは投与日の翌日に退院可能です。1回の投与につき、入院期間は2泊3日ほどです。



お気軽に
ご相談・ご紹介
ください



総合腫瘍外来への
紹介方法



お電話

予約専用ダイヤル [受付時間] 平日8:30~17:00

090-9596-8367

外来診察日 月・水・金(14:00~16:00)

- 地域医療連携室スタッフが対応いたします。医師にご相談の場合は別途お繋ぎいたします。
- 医師、看護師だけでなく予約担当者様からのお電話も承っております。



FAX

外来紹介センター [受付時間] 平日8:30~17:00 / 土曜9:00~12:00

096-351-8697

- 診療情報提供書(または紹介患者FAX依頼書)を送付ください。